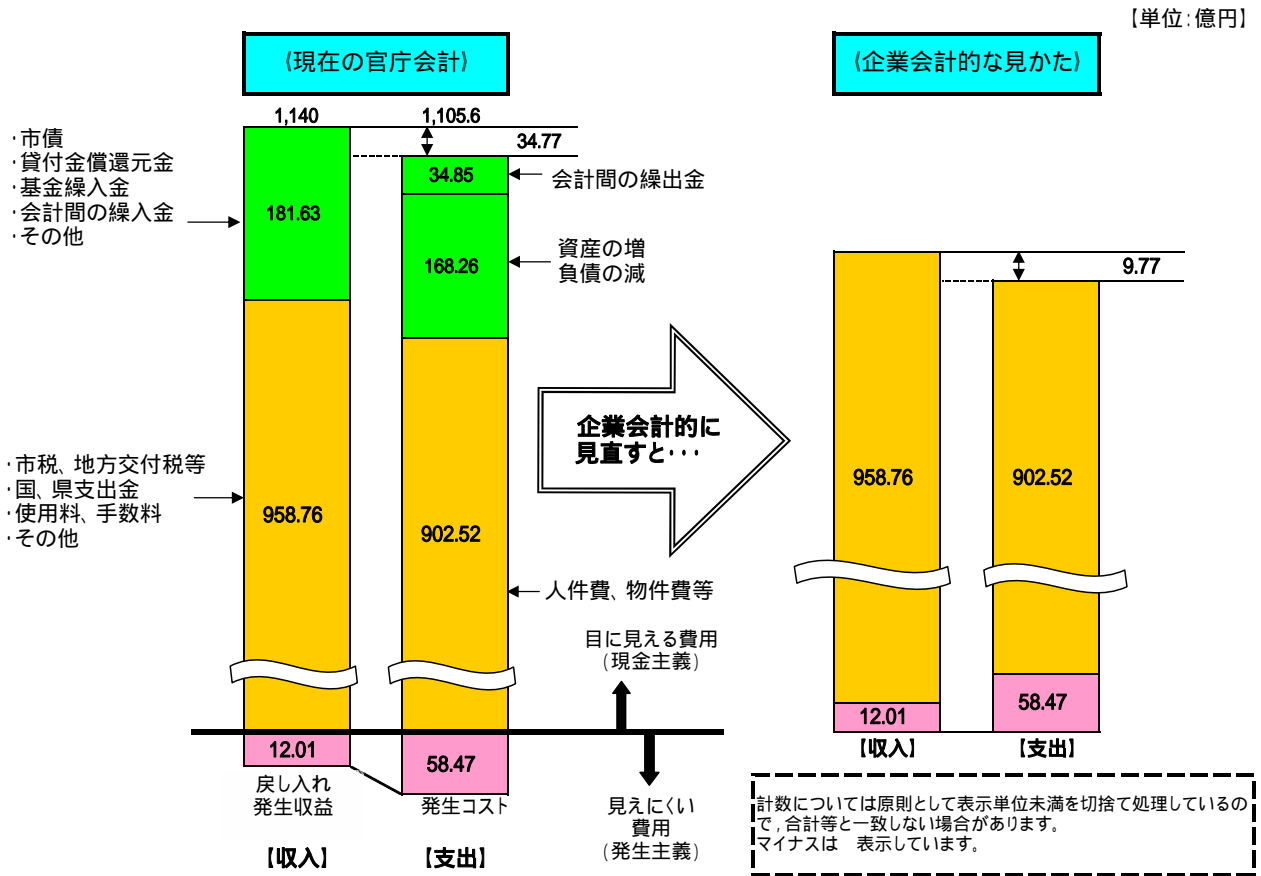


官庁会計を企業会計的に見直すと・・・

1. 平成25年度の一般会計と7特別会計の連結決算では、34億7,700万円の収入支出差引残となりますが、視点を変えると、収支差額は9億7,700万円のプラスとなります。



現在の官庁会計による収支決算(歳入から歳出を除く。)では、34億7,700万円の差引残ですが、これを企業会計的な視点から見直すと、収支差額は9億7,700万円のプラスとなります。

その要因としては、収入(歳入)に関しては市債収入、貸付金償還元金収入、基金繰入金、会計間の繰入金などを控除する一方で、国県補助金の戻し入れや発生収益を加えていること。支出(歳出)に関しては会計間の繰出金や、資産の増加や負債の減少に係る費用を控除する一方で、減価償却費や退職給与引当金繰入額(発生主義特有の現金支出を伴わない費用)などを加えていることが挙げられます。

2. 太田市バランスシートの特徴

「台帳方式」を基本としています

自治体のバランスシートについては、多くの自治体が「総務省方式」を用いていますが、本市では企業会計の原則に従って各種台帳データに基づいて財務諸表を作成する「台帳方式」を基本とし、総務省方式を補完的に用いる方法を採用しています。

数値の具体的な根拠が説明可能であり、活用できるバランスシートとするためです。

連結バランスシートになっています

太田市全体の財政状態を明らかにするために、一般会計と6つの特別会計、さらに3つの企業会計を合算した「連結」バランスシートを作成しています。

(特別会計)

国民健康保険、住宅新築資金等貸付、後期高齢者医療、八王子山墓園、介護保険(保険事業勘定・介護サービス事業勘定)、藪塚本町介護老人保健施設、太陽光発電事業

(公営企業等会計)

下水道事業等会計、水道事業会計、土地開発公社

建設仮勘定、普通財産、不納引当金なども計上しています

より実態に即した財務諸表とするために、継続事業等により未完成な施設などを「建設仮勘定」として、特定の行政目的に使用されていない「普通財産」の評価額、市税等の不納欠損見込額や貸付金の焦げ付き債権額などを「不納引当金」として、それぞれ計上しています。